

# 2019年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

ミッション・ステートメント（使命宣言）：「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」

## 1 本校が目指すもの

### (1) 目指す学校像

学校像1	さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、 <b>仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student is left behind.)</b>
学校像2	生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、 <b>入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement)</b>
学校像3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love "Tbkufu.")

### (2) 目指す生徒像

生徒像1	<b>自己成長感</b> （「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、 <b>自己効力感</b> （「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、 <b>自己有用感</b> （「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った <b>自尊感情</b> の高い生徒 ( <b>Self-esteem</b> )
生徒像2	<b>自己指導能力</b> （その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒 ( <b>Self-guidance</b> )
生徒像3	自立と社会参加に必要な技能としての <b>ソーシャル・スキル</b> （他者と良好な関係を形成・維持していくための技能）を身に付けた生徒 ( <b>Social-skills</b> )

### (3) 目指す職員像

職員像1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く <b>協働の姿勢と利他の精神 (Collaboration&amp;Altruism)</b> を体現した職員
職員像2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける <b>専門職 (Profession)</b> としての姿勢を体現した職員

## 2 学校経営課題

次の2点を柱とする「経営改善計画」を本年度の早い時期に策定し、次年度から同計画を実施していきます。また、技能連携制度を活用した新たな連携先（高等専修学校）の確保に向けた取組を継続するとともに、徳風高等学校と徳風技能専門学校の連携の在り方を抜本的に見直し、次年度から総合コースの再編活性化を大胆に進めていきます。

### (1) 徳風高等学校の改革

ア 総合コースの再編活性化：特色ある新たな講座を開設し、コース内の講座再編を図ります。

イ 平日サポートコースの活性化：津駅から徒歩数分という「地の利」を広報活動に生かすとともに、生徒数増につながる特色ある新たな取組を開始します。

ウ 学校全体の魅力化・特色化：他の通信制高校にはあまり見られない“オンリーワン”の新たな「徳風スタイル」を創出します。

(2) 徳風技能専門学校の改革

次年度から高等課程に新たな分野・学科を、専門課程に新たな学科をそれぞれ設置し、社会の変化に対応した特色ある教育課程を実施します。

### 3 当面の重点実践項目

「目指す学校像・生徒像」の実現に向け、2018年度から3年間、次の3つの取組を「重点実践項目」として計画的に実践します。

重点実践項目	年度	計画概要
1 自学自習方式による「積上げ学習」の実施	2018年度	総合コースの講座「グローバル・コミュニケーション」の選択履修生徒を対象に、英語の公文式教材を新たに導入。
	2019年度	学校設定科目「総合Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修生徒を対象に、英語に加えて数学・国語の公文式教材を導入。
	2020年度	
2 知識活用型授業・課題解決型授業の実施	2018年度	「主体的・対話的で深い学び」を追求する授業を全教科で実践できるよう、授業研究を全校体制で実施。
	2019年度	
	2020年度	
3 ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）の実施	2018年度	全校生徒を対象にSSTを取り入れた授業を新たに実施。
	2019年度	前年度の成果と課題を検証し、2019年度から毎年度、SSTを取り入れた授業を計画的に実施。
	2020年度	

### 4 本年度の計画と自己評価

以下において、「目指す状態」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ具体的に記入しています。

#### (1) 教育活動

##### ア 学習指導

現状と課題	共通的な取組よりも各教員の自主的な工夫に任されている。今後は、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の在り方について校内研修等を行い、更に共通理解を深める必要がある。		
目指す状態	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す「積上げ型授業」と知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業に関する教員研修の実施	自己評価結果	実施できなかった。
	公文式教材を活用した「積上げ学習」に関する教員研修の実施		ほぼ毎月、公文側担当者来校時に行った合同打合せの中で、効果的な指導の在り方等について研鑽を積んだ。
	「亀の山」学習（全生徒対象の朝学習）に関するプロジェクトの活性化		教材内容の見直しをプロジェクトチーム中心に行った。
評価指標	生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒6割以上	結果	64%の生徒が「学力が向上した」と回答。
	職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員5割以上		37%の教員が「授業力が向上した」と回答。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導に関する教員研修の目標・内容を見直す。</li> <li>新任教員に対する研修を計画的・組織的に実施する。</li> <li>本年度から新たに実施している公文式教材を活用した「積上げ学習」の発展的に継続実施する。</li> </ul>		

## イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNS を介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談への対応の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を高める必要性について共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	重点指導事項(共通実践項目)の決定と全教員による共通実践	評価結果	共通実践を要すると判断した事項は、その都度共通理解を図ったうえで実施した。
	授業規律の維持に関する教員研修の実施		実施できなかった。
特別支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施	ケース会議・事例検討会はあまり実施できなかったが、問題行動等発生時における関係教員間の情報共有、毎朝の職員打合せでの必要に応じた情報共有に努めた。		
評価指標	問題行動による特別指導件数年15件以内		年31件
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等の未然防止のため、情報共有を一層強化するとともに、巡回計画の立案・実施等必要な取組を組織的に実施する。</li> <li>必要な生徒について、出身中学校、医療・福祉その他各関係機関との連携協力体制の下で生徒を適切に導き支え続ける態勢をつくる。</li> </ul>		

## ウ 進路指導

現状と課題	自分の進路決定に依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。インターンシップや企業見学に生徒が主体的に取り組めるよう指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒が、自分の進路について必要な情報を得たり教員・保護者等と相談したりしながら、主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	進路ガイダンスその他進路関係行事等の計画的実施と必要な進路関係情報の適時提供	評価結果	事前の共通理解が不十分のまま実施した取組もあった。
	模擬面接、進学補習、小論文指導等の計画的・組織的指導		模擬面接及び小論文指導は不十分であった。
進路指導部と第3学年団との会議・打合せを適切な時期に実施	必要に応じて適宜実施した。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒8割以上		ほとんどの生徒が希望どおり進路実現を果たした。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導計画について、3年間を見通した系統的なものになるよう改定し、各学年の目標・内容等を明確化する。</li> <li>内規・マニュアル等を精査し、全教員に周知徹底を図る。</li> </ul>		

## エ 安全・健康指導

現状と課題	保健室を利用する生徒も多く、精神面も含めた健康指導や個別の相談業務など、種々の対応に負われる状態が続いている。今後は、専門スタッフの配置も視野に入れ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について、抜本的に検討する必要がある。		
目指す状態	生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別支援を必要とする生徒に関する情報が共有されており、安全・健康指導面での人的・物的環境も態勢が整っている。		
実践内容	特別支援を必要とする生徒に係る「個別の指導計画」の作成・活用	評価結果	「個別の指導計画」の作成・活用はできていない。
	特別支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施(再掲)		ケース会議・事例検討会はあまり実施できなかったが、問題行動等発生時における関係教員間の情報共有、毎朝の職員打合せでの必要に応じた情報共有に努めた。(再掲)

評価指標	心身の健康状態が年度当初に比して改善されたと考えられる生徒多数	該当生徒は第一学年に多い。
行動計画	・必要な生徒について、出身中学校、医療、福祉その他各関係機関との連携協力体制の下で生徒を適切に導き支え続ける態勢をつくる。(再掲)	

## オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考えて行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら学校で楽しく集団生活が送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている。		
実践内容	生徒主体の生徒会行事の開催	評価結果	生徒会行事は生徒会役員主導で実施できた。
	ボランティア活動の単位認定制度の創設		同制度を創設し、生徒・保護者に周知した。
	ソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れた授業年2回以上実施		実施できなかった。
評価指標	生徒満足度調査で「コミュニケーション能力が向上した」と回答した生徒6割以上	結果	55%の生徒が「コミュニケーション能力が向上」と回答。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員主導による生徒会行事を継続実施する。</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニング（SST）の教育課程上の位置付けを明確化し、計画的に実施する。</li> </ul>		

## カ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海大会・全国大会に出場する生徒は少なくない。今後は、部活動の活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が計画的・自主的に活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	生徒会による部活動活性化に向けた取組を指導助言	評価結果	教師主導ではあるが、部活動活性化の兆しがみられる。
	生徒主体の「クラブ紹介」の実施		実施できた。
評価指標	年間を通じて計画的・主体的に活動する部の数10以上	結果	全体的に不活発な状態が続く中で、硬式野球部創設に向けた準備が進行中である。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動活性化に向け生徒会中心のキャンペーン活動を行う。</li> <li>・高野連主催の大会出場を目指し、硬式野球部創設のための新入部員勧誘、環境整備その他必要な取組を継続する。</li> </ul>		

## キ 総合コース

現状と課題	入学生が減少傾向にある。今後策定する「経営改善計画」に従い、特色ある講座を新設するなどしてコースの再編活性化を計画的に進める必要がある。		
目指す状態	生徒が自己の興味・関心等に応じて主体的に講座選択し、意欲的に学んでいる。また、ネイルアート講座受講生が各自の目指す検定試験に合格している。		
実践内容	ネイルアート講座受講生の校外での社会貢献活動年5回以上実施	評価結果	年5回実施した。
	計画的な再編活性化案の策定と県内外の中学校に対する広報活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイルアート講座のチラシを新たに作成・配付した。</li> <li>・2021年度開設予定の「日本語コース」について、開設目的、対象生徒、教育課程上の位置付け等、基本的事項を明確化した。</li> </ul>
評価指標	ネイルアート講座受講生の7割以上が自己の目指す検定試験に合格 生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒7割以上	結果	約4割の生徒が目指す検定試験に合格した。 対象生徒の73%が「概ね満足」以上と回答した。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースの基本理念・目標等を明確化し、開設講座の再編活性化を図る。</li> <li>・「日本語コース」の広報チラシを作成・配付し、オープンキャンパスで体験授業を実施する。</li> </ul>		



## ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒間で能力、適性、特性、専門的知識・技能等の個人差が大きく、資格取得に向けたきめ細かな個別指導が必要である。また、生徒が身に付けた専門性を生かせる希望進路を実現できるよう、個に応じた進路ガイダンスと進路開拓に努める必要がある。		
目指す状態	犬との接し方や各犬の課題等の改善方法を全生徒・教員が共有し、生徒全員が目指す検定試験に合格するなどして希望進路を実現している。		
実践内容	夏季・冬季休業中にトリミング講習会を学年・級別に5講座開講	評価結果	4講座を開講した。(トレーニング講座は2回開講)
	福祉施設、小学校、特別支援学校等でのドッグセラピー実習を年10回以上実施		7回実施した。(先方の都合で4回中止)
評価指標	ドッグマスター検定全員合格		2年生全員合格、1年生約9割合格。
	ドッグトリマー検定2級、ドッグトレーナー検定2級に全対象生徒の6割以上合格	ドッグトリマー検定2級は合格者なし。ドッグトレーナー検定2級は約7割が合格。	
行動計画	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		
	対象生徒の84%が「概ね満足」以上と回答した。		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物関係の就職先を更に開拓する。</li> <li>犬の飼養管理の在り方を当番制で体験的に学ぶ学習活動について、教育課程上の位置付けを更に明確化し、その目的・意義等を徹底指導する。</li> </ul>		

## ケ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況、社会人に求められるコミュニケーション能力やマナーの習得状況に格差がみられることから、情報関係の検定試験合格を全生徒の目標に据えるとともに、コミュニケーション能力及び社会人マナーの向上に関する検定試験の実施環境を整備する必要がある。		
目指す状態	全生徒が複数の情報関係の検定試験を受験し、合格している。また、ITパスポート試験等の国家試験の受験者が増加している。		
実践内容	生徒主体の市民対象パソコン講座の運営など社会体験活動の計画的実施	評価結果	市民対象パソコン講座は受講者から高い評価を得た。
	大学・企業見学等学校外における学習活動の計画的実施		校外学習を情報系進路研究の位置づけで実施した。
評価指標	国家試験合格に向けた特別講座の実施		夏期講習を実施し、メールマガジンで意識啓発を行った。
行動計画	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		
	対象生徒の82%が「概ね満足」以上と回答した。		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度導入したICT機器の積極的活用を図る。</li> <li>市民対象パソコン講座の内容・方法を更新する。</li> </ul>		

## (2) 学校運営等

### ア 教育環境の整備

現状と課題	防水工事や設備更新を必要とする箇所がある。計画的に対策を講じていく必要がある。		
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、自然災害等が発生しても生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。		
実践内容	軽度の要修繕箇所の即時対応	評価結果	要修繕箇所はできる限り早期に対応した。
	生徒用トイレの改修、一部普通教室のエアコン取替その他各種工事の計画的実施		ドッグランのフェンス新設工事、一部普通教室のエアコン取替工事、体育館の樋取替工事、寮の漏水防止工事等を計画的に実施した。
評価指標	普通教室ICT化の計画的実施		普通教室(3教室)のICT化を進め、情報教室にもパソコンを新規導入した。
行動計画	改修工事等年度内着工3件以上		
	本年度着工工事5件。		
行動計画	生徒寮の風呂場改修、一部特別教室の視聴覚機能付設等、引き続き優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施に努める。		

## イ 組織運営

現状と課題	職員間・分掌間の連携・協力や情報の共有が十分とは言えない。今後は、研修の充実や組織体制の見直しなど必要な対策を講じる必要がある。		
目指す状態	職員一人一人が職員間・分掌間で「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら意欲的に職務を遂行し、「役割間の隙間にある業務は自分の仕事」と考え行動する協働の姿勢と利他の精神を持つ職員が多い。		
実践内容	職員会議での組織力向上に関する意識啓発文書の配付年5回以上	評価結果	当該文書は年8回配付した。
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」12項目の完全実施		普通教室のICT化など実施できた項目もあるが、完全実施には至らなかった。
学校内外での成果や情報等の環流報告多数	還流報告は少なく、情報等の共有も十分とは言えない。		
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上		・37%の職員が「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答。 ・少ない教職員数というハンディを克服すべく、役割間の「隙間業務」や誰の仕事でもない業務を主体的に行う一部教員が円滑な組織運営に大きく貢献している。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末反省の結果を集約して決定した「重点改善事項」を確実に実施する。</li> <li>・全職員の労働時間の適正な把握に努め、必要な対策を講じる。</li> </ul>		

## ウ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員の学校満足度は高い状態が続いている。		
実践内容	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を12月に実施	評価結果	各満足度調査を12月に実施した。
	「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」12項目の完全実施（再掲）		普通教室のICT化など実施できた項目もあるが、完全実施には至らなかった。（再掲）
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒・保護者8割以上、職員6割以上		「本学園に概ね満足している」旨回答した割合は次のとおりであった。（ ）内の左は昨年度、右は一昨年度。 ・生徒67.4%（60.2%、52.7%） ・保護者75.3%（67.8%、62.0%） ・職員52.6%（42.1%、21.1%）
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各満足度調査を継続実施し、別途実施する「年度末反省」の結果等も踏まえながら、各満足度を高められるよう改善方策を立て実施する。</li> <li>・全職員の労働時間の適正な把握に努め、必要な対策を講じる。（再掲）</li> </ul>		

## 5 本年度の学校関係者評価

- 生徒・保護者・職員の満足度が3年連続で向上していることは評価できるが、計画を立てたものの実施できなかったこともある。計画そのものに無理があったのか、実施できない何か要因があったのか、よく分析し、その結果に応じて適正で実効ある「評価指標」を設定されたい。
- 学校の機構改革に取り組むことはよいが、ハード面の改革だけではなく、ソフト面の改革である教育改革を積極的に進め、職員はもとより中学生とその保護者にも改革の内容を十分説明し、地域になくってはならない学校として存続してほしい。

## 6 次年度に向けた主な行動計画

- (1) 徳風技能専門学校高等課程は次年度、新たに「文化・教養分野」に属する「総合科」を設置し、2分野2学科体制に拡充します。また、「ダブルスクール就学」を可能にする徳風高等学校と徳風技能専門学校の連携について、これまでの「技能連携」を廃止し、連携の裁量幅が格段に広い「高専併修」(学校教育法施行規則第98条第1号)を新たに導入します。

これらのシステム改革により、徳風高等学校全日型コースを、社会の変化に伴い変化する地域の教育ニーズにも即応した教育課程を編成・実施できる極めて柔軟なコースへと質的転換を図り、2021年度には日本語指導を必要とする外国人生徒・海外帰国生徒等を受け入れる「日本語コース」を新設するなど、更に多様な生徒を受け入れるフレキシブルな学校へと進化していきます。

	徳風技能専門学校高等課程		徳風高等学校 (全日型コース)	両校の連携制度
	分野	学科		
2019年度 まで	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	技能連携
			パソコンコース	
			総合コース	
2020年度 から	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	高専併修(新)
	文化・教養(新)	総合科(新)	総合コース	
			日本語コース(新)※	

※生徒募集のための広報活動は2020年度から開始し、入学者は2021年度から受け入れることとする。

- (2) 徳風高等学校全日型コースの総合コースについて、生徒募集等の広報活動及びコース運営を効果的に行うことができるよう、「目指す学校像」を踏まえた総合コースの「目指すコース像」を策定するとともに、選択講座を当該コース像に沿ったものとなるよう、「ライフスキル講座」を新設するなど、次のとおり再編する計画です。

2019年度	2020年度		
講座	講座	指導内容	外部講師
ネイルアート講座	同左	・ネイリスト養成(ネイルアートの基礎・基本、専門的知識・技能の習得、校外実習等)	ネイリスト
スポーツ講座	同左	・健康生活の基礎(体づくり運動、ニュースポーツ等)	なし。
調理講座	同左	・家庭生活の基礎(一人暮らしに役立つ料理、テーブルマナー、栄養学等)	専門調理師 本校調理師等
グローバルコミュニケーション講座	コミュニケーション講座 (改)	・文化生活の基礎(国語又は英語の公文式学習)	なし。
	ライフスキル講座 (新)	・社会生活・職業生活の基礎(消費者教育、金融教育、ビジネスマナー、労働者の権利等)	実務経験者 本校OB等